

福祉・ボランティア出前講座内容一覧及び注意事項

講座名	講座内容	目的	対象	注意事項	貸出用具
福祉講話	①福祉（ノーマライゼーション・バリアフリー等）やボランティアについての基本的な話 ②ボランティア活動の勧め、活動を始める前の注意事項など	・福祉やボランティアの考え方、必要性を理解する。 ・自分とボランティア活動について考えるきっかけとする。		・事前に電話やFAXで具体的な項目内容の打合せをします。 ・講師がパワーポイントを使用する場合は、パソコンやプロジェクター、スクリーンなどを学校でご準備ください。	
聴覚障がい者理解	①聴覚障がいの方のお話 ②聴覚障がいとコミュニケーションをとってみよう！	・聴覚の障がいについて理解する。 ・コミュニケーションの大切さを体験で理解する。	小学生 中学生	・講師は、中途失聴者・難聴者のボランティアグループの方など。 ・ 手話通訳が必要な場合があります。詳細はボランティア・地域貢献活動センターへお問い合わせください。 【問い合わせ】かつしかボランティア・地域貢献活動センター（TEL03-5698-2511） ・講師がパワーポイントを使用する場合は、パソコンやプロジェクター、スクリーンなどを学校でご準備ください。	
手話体験 聴覚障がい者理解	①聴覚障がいの方のお話 ②簡単な手話体験 ③手話コース ④聴覚障がいの方への質問	・聴覚の障がいについて理解する。 ・コミュニケーションの大切さを手話などの体験で理解する。	高校生 保護者 一般区民	・講師は、聴覚障がいのボランティアグループや手話を学んでいるボランティアグループの方など。 ・手話体験や手話コースの内容は、学校の希望に合わせますので、申込の段階でセンターに相談してください。 ・その他、筆談やジェスチャーでのコミュニケーションを試す。またはテレビを消音にして観せるなどのメニューもあります。 ※②については、手話に関する事前学習は行わないようお願いいたします。	
盲導犬育成	①盲導犬育成支援活動の説明（当事者など） ②育成活動のDVD視聴など ③盲導犬（リタイア犬など）との交流	・視覚の障がいや盲導犬について理解する。 ・盲導犬育成にボランティアが関わっていることを知る。		・講師は、盲導犬育成支援活動をしている団体の方など。講師の数が少ないため、日程調整が必要です。 ・盲導犬同伴の場合は、車で来校します。盲導犬が入室可能な会場である必要があります。 ・盲導犬との交流を行わない場合は、ビデオやDVDの視聴となり、パソコンやプロジェクタースクリーンなどの機材が必要です。	盲導犬育成のビデオ・DVD
アイマスクがイトヘルプ体験	①視覚障がいの方のお話 ②視覚の障がいについて ③ガイドヘルプについて ④アイマスクをして視覚障がい者の体験 ⑤ガイドヘルプ体験	・視覚の障がいについて理解する。 ・体験を通して、視覚障がいの方に対する接し方を学ぶ。		・講師は、お仕事をされている方。仕事をしているため日程調整が必要です。 ・ガイドヘルプ体験では、アイマスクをつけた方をガイドしたり、椅子に座らせる体験をします。 ・アイマスク体験では、独歩や椅子に座るなどの体験をします。 ・体験時間の関係で場所や方法を調整する必要があります。 ・ガイドヘルプ体験だけの実施も可能です。 ・アイマスクは直接肌に触れるため、ハンカチかティッシュペーパーを重ねて使用します。	アイマスク最大40枚 白杖最大20本
車いす体験	①身体障がいの方のお話 ②車いすの使用方法的説明 ③車いすを介助する体験 ④車いすに乗り自走する体験	・身体の障がいについて理解する。 ・体験を通して、身体障がいの方に対する接し方を学ぶ。 ・身の回りのバリアについて考える。	同上 (小学生は3年生以上が望ましい)	・講師は、車いす使用者など。 ・事前にセンター職員が伺い、体験コースについて調整をします。（既の実施したことのある学校の場合省略することもあります） ・講師が車いす使用者の場合は、車いすで入室できる会場をお願いします。やむを得ず階段などの昇降が避けられない場合は、講師の介助を先生方にしていただきます。 ・講師がパワーポイントを使用する場合は、パソコンやプロジェクター、スクリーンなどを学校でご準備ください。※講師によってアイマスクが必要な場合もございます。	車いす 最大6台 ※ボランティア・地域貢献活動センターが運搬します。
高齢者疑似体験	①高齢者の特徴について ②用具の装着の説明 ③高齢者疑似セットをつけて高齢者体験（人数・場所により内容調整）	・加齢による身体的特徴を理解する。 ・体験を通して、高齢者を理解し、接し方を学ぶ。		・講師は、お仕事をされている方。仕事をしているため日程調整が必要です。 ・用具の着脱にかなり時間がかかりますので、一部の児童・生徒に体験させたり、一部用具で多くの児童・生徒に体験させるなどの工夫が必要です。 ・体験して歩くコース（階段など障害物を設定）が必要です。 ※1セット×3名がが目安です。	高齢者疑似体験セット 最大10セット ※ボランティア・地域貢献活動センターが運搬します。
高齢者との関わり方	認知症予防ゲームを通して高齢者への関わり方を学ぶ講座 ①認知症について ②認知症予防ゲーム	・認知症と認知症予防の理解を深める。 ・ゲームを通してコミュニケーションの大切さを理解する。	同上 (小学生は3年生以上が望ましい)	・講師は認知症予防ゲームリーダーの資格所有者。 ・会場はゲームができるよう椅子を円になるよう並べてください。 ・ゲームを行う際、全員分の大きめの名札が必要です。	
食事の大切さについて「食育」(朝食を食べましょう！)	①朝食の大切さ ②バランスの取れた食事について ③嚥下困難者への食事について	・朝食やバランス良い食事を取ること、食事を通した家族とのコミュニケーションの大切さについて理解する。	小学生 保護者 一般区民 高齢者及び施設	・講師は、高齢者施設で食事作りにたずさわっている方。仕事をしているため日程調整が必要です。 ・講師がパワーポイントを使用する場合は、パソコンやプロジェクター、スクリーンなどを学校でご準備ください。	

福祉・ボランティア出前講座内容一覧及び注意事項

講座名	講座内容	目的	対象	注意事項	貸出用具
知的障がいってどんなこと？見て・聞いて・体験して(正しく知ろう!)そして友だちになろう!!	①知的障がい・自閉症の特徴について ②知的障がい・自閉症の疑似体験	・知的障がいについて理解する。 ・講座を通して、知的障がいや自閉症の方に対する接し方を学ぶ。	同上 (小学生は4年生以上が望ましい)	・講師はダウン症の子育て経験のある方です。 ・会場は、教室・図書室などをお願いします。	折り紙 軍手
点字(点訳)体験	①点字について ②点字を書く体験 ③点字を読む体験	・視覚の障がいや点字について理解する。 ・体験を通して点字のしくみを理解し、身近な所にある点字に関心をもつ。	同上 (小学生は4年生以上が望ましい)	・講師は、点訳ボランティアグループの方。団体数が少ないため、日程調整が必要です。 ・複数人で教えますが、児童・生徒一人ひとりの手元を見ながらなので、時間がかかります。 ・各自に点字板が必要です。貸出し数について事前に相談してください。	点字版 最大70セット 点字用紙 ※ボランティア・地域貢献活動センターが運搬します。
SSTってなに!	「疲れた!」「寝坊した」「食欲ない!」などの声が出ていませんか? 一人ひとりの自分の身体のことを知り、成長時期の子どもたちの心身に元気を取り戻し、生活の一部を考える講座です。 ①ソーシャル・スキル・トレーニング ②睡眠・食事・清潔について	・自分の生活習慣を見直すきっかけづくり	同上 (小学生は5年生以上が望ましい)	・講師は、お仕事をされている方。仕事をしているため日程調整が必要です。 ・講師がパワーポイントを使用する場合は、パソコンやプロジェクター、スクリーンなどを学校でご準備ください。	
認知症の理解	①高齢者の身体的・精神的変化 ②認知症とは ③認知症の方への接し方	・認知症を理解する。 ・認知症の方への接し方を学ぶ。	同上 (小学生は5年生以上が望ましい)	・講師は、高齢者介護にたずさわっている方。仕事をしているため日程調整が必要です。 ・講師がパワーポイントを使用する場合は、パソコンやプロジェクター、スクリーンなどを学校でご準備ください。	
シナプソロジー認知症について	①認知症について ②寸劇やクイズなど ③シナプソロジーの実践	・認知症を理解する。 ・認知症予防についてを学ぶ。 ・認知症の方への接し方を学ぶ。	同上 (小学生は3年生以上が望ましい)	・講師は、仕事をしているため日程調整が必要です。 ・講師がパワーポイントを使用する場合は、パソコンやプロジェクター、スクリーンなどを学校でご準備ください。 ・シナプソロジーでグループを作る時にはご協力お願いいたします。	
国際協力、国際理解について	①支援した外国の歴史について ②外国の子どもたちの様子 ③外国の生活、課題について	・外国の生活、歴史について学ぶ。 ・外国の子どもたちの状況の理解。 ・現在の課題、これからの支援について学ぶ。	同上 (中学生以上が望ましい)	・講師は、仕事をしているため日程調整が必要です。 ・講師がパワーポイントを使用する場合は、パソコンやプロジェクター、スクリーンなどを学校でご準備ください。	

<講座を進めるうえでご注意いただきたい点>

○体験学習は、複数で同時進行するため、ケガなどの事故が起きないように先生からも児童・生徒に注意喚起を行うとともに、必要に応じて、講師の指示による指導の補助をしていただきます。

○福祉教育、体験学習は、1回のみでの講座では効果が薄いので、学年単位で継続性を持たせるような取り組みもご検討ください。

(例) 4年生：車いす体験(校内)
5年生：4年生時の体験をもとに、街の中での体験
6年生：地域のバリアフリーマップ作成

※体験学習の詳細については、『教員向け 福祉×教育ハンドブック (改訂版)』をご参照ください。